

となりのしばふシリーズ5

動物保護と 文化財保存

専門家が語る
未来へのまなざし



動物園では、野生動物との共存に対する関心が高まる中、環境教育施設としての役割が特に求められています。また、博物館では、災害時における文化財保護や文化財の保存・活用に関する取り組みが重要視されています。

今回の「となりのしばふ」では、天然記念物であるタンチョウのレスキューと教育啓発活動に取り組んできた釧路市動物園の飯間裕子氏と、文化財保存科学の専門家である北海道博物館の高橋佳久氏をお招きします。動物保護と文化財保存という一見接点のない現場から、動物園と博物館がどのように連携し、未来に向けた交差点を築けるのかを語り合います。

2024年12月1日(日)
13時00分～16時00分

会場
北海道大学オープンイノベーションハブ
「エンレイソウ」メインラウンジ
※zoomによるオンライン配信を併用

飯間 裕子

(釧路市動物園 獣医師)



香川県高松市出身。2009年3月に酪農学園大学獣医学部を卒業し、同年6月より釧路市動物園勤務。片足を失ったタンチョウのための義足を手作りするなど、様々な治療道具を製作しながらタンチョウの治療に取り組む。

また、義足のタンチョウの公開飼育やフォトブック「タンチョウレスキューの現場から」の製作、「タンチョウレスキュー展」(巡回パネル展)開催等、タンチョウの交通事故防止や共生のための普及啓発などに取り組む。

司会・コーディネーター

卓彦伶 (北海道大学文学研究院 講師)

獣医師

学芸員

高橋 佳久

(北海道博物館 学芸員)



北海道生まれ。2020年、東京学芸大学大学院修士課程修了(この間並行して約10年間会社員として勤務)。同年、東京文化財研究所保存科学研究センターに非常勤職員として着任。2022年、北海道博物館に着任。現在、博物館で文化財保存科学を専門とする学芸員として、主に収蔵・展示環境の維持管理に携わっている。目下関心のある研究テーマは、屋外に近い環境における博物館資料の保存と文化財防災。

入場無料

申し込み方法

参加無料。事前のお申し込みが必要です。

締切は、2024年11月29日(金)13:00です。

右のQRコードより申し込みフォームへとお進みください。

お申込みは
こちらから!



お問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目
北海道大学文学研究院 内
「プラス・ミュージアム・プログラム」事務局
Mail plusm@let.hokudai.ac.jp
TEL 011-706-3017

